

◆一華会展の様子



展覧会初日、山田翠香副会長による作品解説



会場風景

<表彰式並びに席上揮毫>



藤田祐子毎日新聞福山支局長様
のご祝辞



会長賞受賞の佐藤光邦さん



揮毫される会長賞・大賞・同人特別
賞受賞者



佐藤光邦さんの揮毫



鑑・審査員の先生と受賞者全員で記念撮影

<祝賀懇親会>



大楽悠雪会長代行による開会あいさつ



衆議院議員小林史明先生のご祝辞

<ワークショップ>

展覧会会期中、ふくやま美術館において「漢代の隷書に取り組もう」をテーマに行われ、参加者は『礼器碑』『敦煌漢簡』『石門頌』等さまざまな隷書に熱心に取り組んだ。指導には児玉恒風展覧会部長があたり、高校生から大人まで20数名の参加があった。



手本書きされる児玉恒風さん



参加者の皆さん

<併催臨書作品コーナー>

毎回、鑑・審査員による 臨書作品が併催されているが、今回展は「唐崎赤齋先生碑銘」「大観帖手跋」「禮器碑」「書譜」「瓦當文」等様々な古典臨書14点が展示された。千葉幽篁理事長より、作品ひとつひとつについて、古典の特徴をユーモアを交えて解説があった。

また、古典学習の発展として作品作りをして楽しむ具体的な方法の紹介もあった。



千葉幽篁さんの解説